

調査結果の概要及び今後の取組について

平成29年4月18日に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要及び今後の取り組みについて、お知らせいたします。

この調査は、小学6年生と中学3年生を対象とし、「教科に関する調査」について小学校は国語・算数、中学校は国語・数学の2教科を実施し、また児童生徒の学習意欲や学習環境等を調査する「質問紙調査」も併せて実施いたしました。

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、また学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるために実施したものです。

本教育委員会では、町内小中学校全体の調査結果の概要と今後の取組について広く町民の皆様にお知らせし、子どもたちの学力向上・学習環境の改善に向けて、学校・保護者・地域が一体となった取組を進めてまいります。ご理解ご協力をお願い致します。

1 教科に関する調査結果について

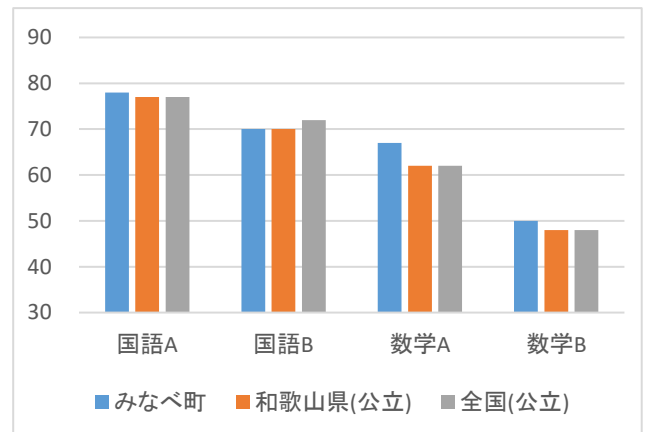
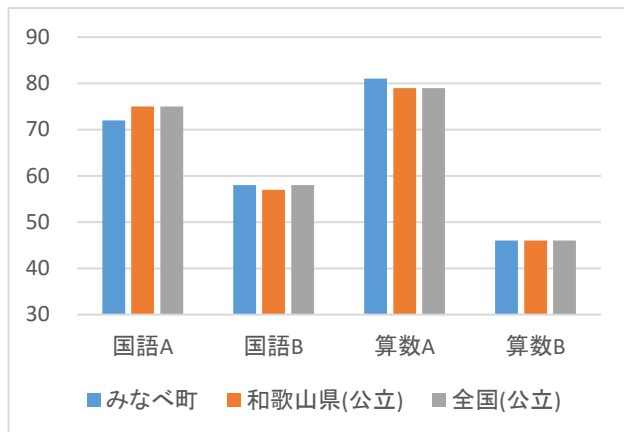
(1)平均正答率(%)

小学校 第6学年

	国語A	国語B	算数A	算数B
みなべ町	72	58	81	46
和歌山県(公立)	75	57	79	46
全国(公立)	75	58	79	46

中学校 第3学年

	国語A	国語B	数学A	数学B
みなべ町	78	70	67	50
和歌山県(公立)	77	70	62	48
全国(公立)	77	72	62	48



※国語A、算数・数学A: 主として「知識」に関する問題
 国語B、算数・数学B: 主として「活用」に関する問題

小学校の平均正答率は、例年全国・和歌山県より算数A以外は低い傾向にありましたが、今年度は国語A以外は全国平均と同程度の結果となり学力の向上がみられます。

中学校の平均正答率は、例年と同様に数学A・Bにおいて全国・和歌山県より高く、課題であった国語においても、国語Aは全国よりやや高く、国語Bでは差が小さくなっており、改善が見られます。

(2)各教科の学習指導要領の領域別平均正答率

学年 教科	小学校6年生		中学校3年生	
	国語A	国語B	国語A	国語B
学習指導要領の領域 話すこと・聞くこと	—	—	—	—
書くこと	—	—	—	▽
読むこと	—	—	—	—
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	—	—	—	○
学年 教科	算数A	算数B	数学A	数学B
学習指導要領の領域 数と計算/数と式	○	—	◎	○
量と測定/図形	▽	◎	◎	—
図形/関数	○	—	◎	—
数量関係/資料の活用	—	—	◎	—

<p>国語</p> <p>小学校は、昨年度に比べ「話すこと・聞くこと」の領域に改善がみられ、各領域においてほぼ全国と同程度の平均正答率でした。</p> <p>中学校でも、例年課題であったB問題において全国より高い正答率もみられました。</p> <p>小・中学校において、国語科の課題克服の取り組みは今後も継続が必要です。</p>
<p>算数・数学</p> <p>小学校はA問題において「量と測定/図形」の領域で全国よりやや低くなっていますが、課題が多かったB問題の各領域において成果が見られます</p> <p>中学校では、A問題においてすべての領域で全国より5ポイント以上高くなっており、基礎学力の定着ができています。</p>

※ 小学校の領域名/中学校の領域名

- ◎ : 全国平均に比べ5ポイント以上高い
- : 全国平均に比べ3～5ポイント高い
- ▽ : 全国平均に比べ5ポイント以上低い
- ▽ : 全国平均に比べ3～5ポイント低い
- : 全国平均との差が3ポイント未満

(3)教科の概要

小学校

国語

- ◇漢字の読みがよくできています。
- ◆同音異義語の漢字の書き取りに課題があります。
- ◆手紙の後付け(日付・署名・宛名)の位置の理解に課題があります。
- ◆目的や意図に応じて、必要な内容を整理して文章を書くことに課題がみられます。

算数

- ◇整数、小数、分数の四則計算がよくできています。
- ◆平行線上における平行四辺形と三角形の面積関係に課題がみられます。
- ◆線分図や表の意味を理解し、問いに答える内容に課題があります。

今後の取組について

- ・同音異義語の漢字の書き取りだけでなく、ことわざや四字熟語など定期的に取り扱い、児童が慣れ親しめるよう指導します。
- ・お世話になった方や家族に手紙を書くなど、現代生活の中で廃れてきている手紙文化を大切に取組んでいきます。
- ・授業で表やグラフの読み取りを含む問題を意識的に増やし、丁寧に指導していきます。
- ・文章を正しく読み取り、目的や意図に応じた自分の考えを書けるよう機会を設け、思考力・表現力の育成に努めます。

中学校

国語

- ◇文脈に即して漢字を正しく読むことや書くことができます。
- ◆事象や行為などを表す多様な語句について考え、漢字で表すことに課題がみられます。
- ◆問いの条件に応じた内容について、自分の感じたことや考えたことを文章に書くことに課題があります。

数学

- ◇正の数、負の数、文字の式の計算など基本的な計算がよくできています。
- ◇1次方程式や連立方程式を正確に解くことができます。
- ◆関数の意味や、変化の割合の意味を理解し問題を解くことに課題がみられます。
- ◆事象について表やグラフまたは式と対応させ、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。

今後の取組について

- ・漢字の読み書きだけでなく、事象に適した語句を考え漢字で適切に表すような問いにも取り組みます。
- ・関数の問題を解くだけでなく、関数の意味についての確認も大切に扱います。
- ・問題文を読み取り、目的や意図に応じ自分の考えを書く機会を設けるなど、思考力・表現力の育成に努めます。

2 質問紙の調査結果について

全国と比べ特徴的な結果の出ている質問について紹介します。

(1)「学校に行くのは楽しいですか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校では昨年度に比べ7%も高くなり、小・中学校とも全国平均を上回っています。

(単位: %)

楽しい		みなべ町	全国	差異
	小学校	91	86	5
中学校	83	81	2	

(2)「授業はよく分かりますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校国語では昨年度より高くなり全国との差が縮まりましたが、中学校では全国との差が大きくなり国語の苦手意識が課題です。算数・数学は正答率結果と同じく、全国より高くなっています。

(単位: %)

よく分かる			みなべ町	全国	差異
		小学校	国語	80	82
	算数	83	81	2	
中学校	国語	64	75	▲ 11	
	数学	75	69	6	

(3)「勉強や読書は好きですか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、特に小学校で昨年度に比べ国語・読書でそれぞれ13%高くなり学校司書導入や国語力向上の取り組みの成果が出ています。中学校では、正答率結果が改善したにもかかわらず、学習への興味関心が伸び悩んでおり、授業改善や生徒の学びに向かう意識が課題です。

(単位: %)

好きである			みなべ町	全国	差異
		小学校	国語	56	60
算数	72		66	6	
読書	77		74	3	
中学校	国語	32	61	▲ 29	
	数学	42	55	▲ 13	
	読書	64	70	▲ 6	

(4)「ふだんどのくらい勉強しますか」

平日において、「1時間以上」勉強する児童・生徒が昨年度より小学校は7% 中学校も5%増加しました。しかし、休日では中学校で「1時間以上」の生徒が昨年度より11%減少し、小・中学校とも休日の勉強時間は1時間未満である児童生徒が多く、宿題の量や自主学習の啓発など今後も取り組みが必要です。

(単位:%)

ふだんの勉強時間			小学校			中学校		
	時間	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異	
		平日	1時間以上	58	64	▲ 6	67	69
	1時間未満	39	33	6	29	26	3	
	しない	3	3	0	4	5	▲ 1	
休日	1時間以上	45	57	▲ 12	45	70	▲ 25	
	1時間未満	41	33	8	36	20	16	
	しない	14	10	4	19	20	▲ 1	

(5)「平日どのくらい時間を使っていますか(テレビ)(ゲーム)(インターネットやSNS)について」

平日の家での過ごし方については、小学校においてゲームを「2時間以上」する児童が昨年度より14%減り、各校での取り組みの成果が出ています。しかし中学校では、逆にゲームを「2時間以上」する生徒が10%増加し全国よりも高く、学習時間の少なさともあわせ、家での過ごし方を見直す必要があります。

(単位:%)

平日の家での過ごし方		小学校			中学校		
	時間	みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
テレビ・動画	2時間以上	55	56	1	45	49	4
ゲーム全般	2時間以上	26	31	5	47	38	▲ 9
ネット・SNS	2時間以上	7	12	5	30	32	2

(6)「将来の夢や目標を持っていますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、小学校は昨年度より4%高くなり、中学校は同じ値でした。職業体験なども踏まえ、将来の自分の姿を考えるキャリア教育の充実が大切です。

(単位:%)

持っている			みなべ町	全国	差異
	小学校		88	86	2
	中学校		62	71	▲ 9

今後の取組について

各学校における地道な取り組みにより、みなべ町の学力状況は昨年度より改善されてきています。しかし、国語においては「要点を読み取る・自分の考えを書く」などに引き続き課題が見受けられます。国語力向上を学習全般の問題としてとらえ、思考力・表現力を高めるための授業改善に努めます。また、昨年度より各小学校に導入された学校司書の活動により、子ども達の読書量や本への興味は深まっています。今後も読書習慣の定着や授業での図書活用の充実を図ります。

家庭でのゲームやネットに費やす時間は、小学校では昨年度より減少傾向にありますが、中学校では増加しています。休日の学習時間の現状なども含み、家庭での過ごし方について啓発活動を引き続き行います。

各学校では、子どもたちが将来なりたい自分の姿に向かって「意欲的に学び・確かな学力がつく」授業づくりに取り組み、今後とも、子どもたち一人ひとりが輝く学校づくりを進めてまいります。